

基礎・基本の確実な定着を図る土曜授業のモデルカリキュラム（南富良野町立南富良野小学校） 学級数 9（うち、特別支援学級 3） 児童 87 名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本が身に付いてきている。
- チャレンジテストの結果から、学年ごとに算数の学習内容の定着状況に差があるなど、課題が見られる。
- 家庭学習に1時間以上取り組む子どもの割合が全国に比べて低く、学習習慣の確立に課題が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

地域の教育力を活用し、保護者・地域と連携した土曜日ならではの教育活動の充実を図るとともに、国語及び算数の補充的な学習を実施することにより、基礎・基本を身に付け、校内外において主体的に学ぶ子どもを育成する。

〔目標指標〕

チャレンジテストの算数の正答数を全学年において全道平均以上にするとともに、家庭学習に1時間以上取り組む子どもの割合を60%以上にする。

〔地域の実状〕

- 保護者アンケートの結果を見ると、学校の取組に対して協力的である。
- 土曜授業の実施回数を重ねるにつれて、行事等に対する関心が高まっている。
- 町全体で子どもを育てようとする風土があり、少年団活動にも熱心に取り組んでいる。
- 地域の方がゲストティーチャーや採点ボランティアとして協力するなど、学校の教育活動に理解を示している。

補充的な学習の充実の実際

土曜授業における補充的な学習の実施に当たっては、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう、国語と算数を中心に行っている。特に算数においては、高学年では習熟の程度に応じた少人数による指導、低学年ではチーム・ティーチングによる指導を実施するなど、効果的な指導を進めている。

また、保護者や地域の方による採点ボランティアを活用するなど、地域との連携を推進している。

さらに、土曜授業における学習と連動して、平常日には「放課後学習ガッチリタイム」や「毎朝学習コツコツタイム」においてチャレンジテストや課題プリントを活用した取組を実施している。



【補充的な学習】

〔カリキュラムの工夫〕

期 日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月23日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・前の学年で課題が見られた内容の復習	○ チーム・ティーチングや少人数による授業の実施
5月14日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・単元を通して課題が見られた内容の復習	○ 算数のチーム・ティーチングや少人数による授業の実施
9月3日（土）	○ 低学年の食育に関する授業の実施	○ 栄養教諭による食育に関する授業
9月24日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・単元を通して課題が見られた内容の復習	○ 国語と算数のチーム・ティーチングや少人数による授業の実施
10月29日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・日常の授業と関連させた補充的な学習 ○ 中学年の食育に関する授業の実施	○ チーム・ティーチングや少人数による授業の実施 ○ 栄養教諭による食育に関する授業
11月19日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・チャレンジテストを活用した取組 ・地域の方による採点ボランティアの活用 ○ 高学年の食育に関する授業の実施	○ チーム・ティーチングや少人数による授業の実施、採点ボランティアの活用 ○ 栄養教諭による食育に関する授業
12月3日（土）	○ 国語や算数の練習問題の実施 ・単元を通して課題が見られた内容の復習	○ チーム・ティーチングや少人数による授業の実施
2月18日（土）	○ アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習の実施 ○ 全校体育「ファイナルチャレンジ」の実施	○ 外部講師の活用 ・アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習におけるゲストティーチャーの招聘



【保護者や地域の方による採点ボランティア】

本カリキュラムのポイント

◆ねらいの具現化

- ・国語・算数における補充的な学習の徹底

◆各種調査やデータ等に基づく編成

- ・全国学力・学習状況調査、児童・保護者アンケートの結果分析と目標指標の設定

◆学習内容の工夫と人的・物的資源等の関連

- ・保護者・地域参加型による授業、地域公開型の学校行事の実施、食育に関する授業

基礎・基本の確実な定着を図る土曜授業のモデルカリキュラム（小清水町立小清水小学校） 学級数12（うち、特別支援学級4）児童222名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着に課題が見られるが、習熟度別少人数指導、補充学習の実施により改善が図られつつある。
- 家庭学習の時間が30分以上、1時間より少ない児童が全体の約38%に及ぶなど、学習習慣の確立に課題が見られる。
- 学校の授業以外に、普段、1日当たり1時間以上読書する児童の割合が、全国及び全道を上回っている。
- 明るく素直な児童が多く、集団の中で高め合う姿や、のびのびと自己表現する姿が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

- 国語、算数を中心とした個に応じた指導の充実、習熟度別少人数指導、補充学習の実施により、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 保護者や地域住民の協力や授業参観等により、学校運営の充実と改善を図る。

〔目標指標〕

- 全国学力・学習状況調査において、全領域で全国平均以上にする。
- ほっかいどうチャレンジテストの平均正答数を道内平均全体より+1.20ポイント以上にする。
- 児童アンケートにおける土曜授業に対する、児童の肯定的な回答の割合を8割以上にする。

〔地域の実状〕

- 保護者、地域住民は、学校の教育活動について、協力的である。
- 学校評議員、教育委員、民生委員などと情報交換を実施するなど、連携を強化し、学校運営の充実と改善を図っている。
- 平成29年度からの小中一貫校設立に向けて、小・中学校の連携を密にし、児童生徒の指導に当たっている。
- 小中一貫教育推進協議会を随時開催し、様々な見地から地域における小中一貫校の在り方について検討している。

小学生の中学校校舎への登校の実際

本校は、平成29年度から、併設型の小中一貫校となる。その準備として、小学第5学年と第6学年は土曜授業等を活用して中学校校舎へ登校している。

児童は、通常の授業に加えて、中学校の教科担任による授業を体験したり、中学校行事へ参加したりしている。

中学校には小学生用の教室が設置されており、次年度への準備が進められている。



【中学生との芸術鑑賞（第5・6学年）】

〔カリキュラムの工夫〕

日程	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月16日(土)	○(参観日) 個別授業と少人数授業を公開	○保護者及び地域住民へ広く参観を呼び掛け
6月4日(土)	○(運動会) 運動会を実施	○地域へ広く案内状を送付
9月24日(土)	○(芸術鑑賞) 小学校第5・6学年が、中学生とともに鑑賞	○小学生の座席は中学生が準備
11月12日(土)	○(学芸会) 児童が主体的に取り組めるような形態の工夫	○地域へ広く案内状を送付
11月19日(土)	○(通常授業) 個別授業、少人数授業、繰り返し学習の実施(月～金曜日の学習内容を踏まえた内容)、第5学年は、中学校に登校して授業を実施	○小学校第5学年に対する、中学校教師による教科担任制の授業を中学校で実施
12月3日(土)	○(通常授業) 個別授業、少人数授業、繰り返し学習の実施(月～金曜日の学習内容を踏まえた内容)、小学校第6学年は、中学校登校し、保護者・地域住民へ授業を公開	○小学第6学年の保護者に中学校における参観日の案内を発送
12月17日(土)	○(参観日) 情報モラル授業、少人数授業、繰り返し学習、発展的な学習の実施	○地域へ広く案内状を送付。(幼稚園・保育所の年長児の保護者等を含む)
1月21日(土)	○(通常授業) 個別授業、少人数授業、繰り返し学習の実施、第5学年は、中学校に登校して授業を実施	○小学校第5学年に対する、中学校教師による教科担任制の授業を中学校で実施
2月11日(土)	○(通常授業) 個別授業、少人数授業、繰り返し学習の実施、小学校第6学年は、中学校登校し、保護者・地域住民へ授業を公開、小学校第5・6学年は、地域ボランティアの協力の下で家庭科の授業を実施	○小学第6学年の保護者に中学校における参観日の案内を発送
2月18日(土)	○(参観日) 個別授業と少人数授業を公開	○保護者及び地域住民へ広く参観を呼び掛け
3月11日(土)	○(通常授業) 学年末の復習を中心とした個別授業、少人数授業、繰り返し学習、発展的な学習の実施、小学校第5・6学年が、中学校における卒業生を送る会の発表を鑑賞	○小学生の座席は中学生が準備



【中学校における初めての体験学習（第5学年）】

本カリキュラムのポイント

◆学力向上に向けた取組

- ・習熟度別少人数指導による基礎・基本の定着
- ・児童が主体的に学ぶ学習の実施
- ・各種調査を踏まえた学力等の分析と改善策の検討
- ・改善策を踏まえた補充学習の充実

◆地域に開かれた学校行事

- ・保護者、地域住民に広く呼び掛けて実施

◆小中一貫校に向けての取組

- ・乗り入れ授業の実施
中→小（外国語活動・理科・音楽科・体育科・図画工作科）
小→中（家庭科）

基礎・基本の確実な定着を図る土曜授業のモデルカリキュラム（羅臼町立羅臼小学校） 学級数9（うち、特別支援学級3）児童146名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査やNRT学力テスト等の結果から基礎・基本の定着に課題が見られる。
- ほとんどの児童が家庭学習に取り組んでいるが、学習時間が短く、テレビゲームやインターネットをする時間が長い傾向が見られるなど、学習習慣の確立に課題が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

保護者や地域住民と連携した補充的な学習の充実を図ることにより、子どもに基礎・基本の確実な定着を図る。

〔目標指標〕

- 全国学力・学習状況調査において、国語A、算数Aで全国平均以上にする。
- 標準学力検査において、前回実施よりも全学年+3ポイント以上にする。

〔地域の実状〕

- 本校は、創立121年を迎え、豊かな自然に恵まれた歴史と伝統のある学校であり、保護者や地域住民の学校に関する期待は大きい。
- 過疎化の傾向があり、児童数が年々減少してきている。
- 保護者や地域住民は、学校の教育活動に協力的である。
- 町全体で「幼小中高一貫教育」を推進し、幼小、小中、中高連携の充実を図っている。

補充的な学習の充実の実際

学習内容の確実な定着を図るため、土曜日に既習事項の理解の状況を確認しながら、平日の学習を振り返る学習を行うなど、児童のつまずきへの対応を重点とした指導を位置付けるとともに、平日と同様、授業の内容と関連付けた宿題を与えている。

また、保護者や地域住民に、国語、算数のプリント学習の採点を依頼することにより、学級担任の個別指導に当たる時間が確保されるとともに、保護者が子どもの学習習慣の確立に向けた家庭の役割について理解を深めている。



【保護者や地域住民によるプリントの採点】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
9月12日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学級において、毎週木曜日の朝の活動で、漢字や計算問題の学習を実施(年間通して実施) ・授業の進度に応じた内容 ○ すべての学級において、毎週金曜日の放課後の補充的な学習で、その週に学習した漢字や計算問題の振り返りプリントを活用(年間通して実施) ・テスト結果の記録の集積による定着状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域住民との打合せ ・本の読み聞かせ ・漁協青年部による「サケ学習」 ・蜂に関する学習 ○ 補充的な学習の実施 ・「学びタイム」(毎週木曜日) ・「放課後学習」(毎週金曜日)
9月23日(金)		
9月24日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字や計算問題を活用した個別学習の実施 ・9月12日(月)以降の授業で学習した漢字や計算問題を再構成した振り返りプリントの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域住民による国語、算数のプリント学習の採点 ・「学びタイム」や「放課後学習」の実施状況を踏まえた個別指導
1月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学級において、毎週木曜日、朝の活動で漢字や算数のドリル学習を実施 ・授業の進度に応じた内容 ○ 補充的な学習において、冬季休業中の課題で出題した漢字や計算問題の振り返りプリントを活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と地域住民等との打合せ ・仕事に関する講話(地域の企業による出前授業) ○ 補充的な学習の実施 ・「ウィンターテスト」の実施
2月3日(金)		
2月4日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字や算数の計算問題を活用した個別学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者による国語、算数のプリント学習の採点



【地域の方による生き方等に関する講話】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
 - ・保護者や地域住民とのねらいの共有
- ◆地域人材の活用
 - ・保護者や地域住民と連携した補充的な学習の充実
- ◆学習習慣の確立に向けた取組
 - ・家庭における学習習慣の確立に向けた保護者の役割についての理解

基礎・基本の確実な定着を図る土曜授業のモデルカリキュラム（恵庭市立柏陽中学校） 学級数9（うち、特別支援学級2）生徒 226名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査の結果から、国語の基礎・基本の定着、数学の活用に課題が見られる。
- 学習活動等に粘り強く取り組む姿勢は見られるが、先を見通して計画的に取り組むことは苦手である。
- 家庭学習の時間は増える傾向にあるが、平日に1時間30分以上、家庭学習を行う子どもが5割に満たない状況である。
- 挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣が身に付いてきており、8割の子どもが「自分によいところがある」と考え、自尊感情は高くなってきている。

〔本校における土曜授業のねらい〕

「補充・深化」の授業、地域と連携した特別活動や総合的な学習の時間を土曜授業に位置付け、日常の教科等の連続性を図ることにより、子どもに基礎・基本を確実に身に付けさせる。

〔目標指標〕

学力コンクール（8月、10月、1月の年3回実施）の正答率9割以上の子どもを60%以上にする。

〔地域の実状〕

- 地域住民は、学校の教育活動に関心をもち、地域の協力体制を確立する必要がある。
- 平成30年度からのコミュニティ・スクール導入に向け、学校評議員、自治会役員、保護者、学校職員で準備委員会を立ち上げ、地域と連携を図った取組を推進している。
- 小学校と本校の教育目標（目指す子ども像）を共有し、円滑な接続や学校力向上を図った小中一貫の取組を推進している。

「補充・深化」学習の充実の実際

土曜日の「補充・深化」の学習の充実に当たっては、子どもの学習意欲を高めることはもとより、課題の見られる教科、領域の確実な定着を図るため、日常の学習内容と関連付けて繰り返し学習する機会を設定している。

また、全国学力・学習状況調査の問題を全校で履修内容に応じて取り組み、学習内容の定着状況を把握するとともに、課題が見られた問題は日常の授業で再度取り上げている。

さらに、年3回の「学力コンクール」を実施し（8月：国・数・外、10月：理・社、1月：5教科）、その結果を廊下に掲示するなどして、学習意欲の向上や基礎・基本の定着を図っている。



【学力コンクール】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月11日（月） ～通年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学年・学級で朝自習を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連付けた基礎・基本問題 ○ 放課後の補充的な学習における基礎・基本の定着、発展・活用問題へのチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストの活用 ・授業の進度に応じた内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後の補充的な学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・エンデバー作戦（放課後学習） ・テスト前学習会（3日間） ・ALTによる英語学習会（週1回）
5月14日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査、NRTの結果を踏まえた「復習・補充・改善」 <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果の課題に基づく反復学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部人材を活用した体験的な授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携した実験教室（南極クラス） ・附属理科教育センターによる科学実験教室
8月20日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力コンクールの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・朝自習で実施した基礎・基本問題を活用（国語、数学、外国語の3教科） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ボランティア活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域住民、子どもの協働による清掃活動と植樹の雑草取り ・外部人材を活用した介護体験学習
9月24日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校生徒による全国学力・学習状況調査問題の再実施（履修内容の範囲で出題） 	
10月15日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力コンクールの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・朝自習で実施した基礎・基本問題を活用（社会、理科の2教科） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携による教育活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校（第6学年）との合同開催によるいじめ防止集会
1月14日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力コンクールの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・朝自習で実施した基礎・基本問題を活用（5教科） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土曜授業と連動した「土曜スクール」におけるボランティア講師の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・数学、理科、外国語の補充・深化の学習



【科学実験教室】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいと成果の共有
 - ・ねらいや成果を家庭、地域に発信し、保護者・地域住民と共有
- ◆学習内容の確実な定着を図る教育課程の工夫
 - ・各種調査結果の課題を踏まえた反復学習の位置付け
 - ・定期的な学力コンクールの実施
 - ・全校生徒による全国学力・学習状況調査問題の再実施
- ◆地域の人的・物的資源の活用
 - ・外部人材の有効活用による学習意欲の向上

基礎・基本の確実な定着を図る土曜授業のモデルカリキュラム（小清水町立小清水中学校） 学級数6（うち、特別支援学級2）生徒122名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着に課題が見られる。
- 自分の考えを述べたり、人前で発表したりすることを苦手としている。
- 家庭学習の時間は全道平均と同様だが、自ら計画を立てて学習している割合は全体の6割以上であり、全道平均を上回っている。
- 将来の夢の実現に向け努力する生徒が多く、学習に対して真面目に取り組む姿が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

- 教科時数の増加による、反復学習等の時間の確保、習熟度別少人数指導の実施により、基礎・基本の定着を図る。
- 保護者や地域住民の授業参観等により、学校運営の充実と改善を図る。

〔地域の実状〕

- 保護者、地域住民は、学校の教育活動について、協力的である。
- 学校評議員、教育委員、民生委員などと情報交換を実施するなど、連携を強化し、学校運営の充実と改善を図っている。
- 平成29年度からの小中一貫校設立に向けて、小・中学校の連携を密にし、児童生徒の指導に当たっている。
- 小中一貫教育推進協議会を随時開催し、様々な見地から地域における小中一貫校の在り方について検討している。

〔目標指標〕

- 全国学力・学習状況調査において、全領域で全国平均以上にする。
- 生徒アンケートにおける土曜授業に対する、生徒の肯定的な回答の割合を8割以上にする。

習熟度別少人数指導の実際

基礎・基本の確実な定着を図ることを目標としているため、土曜日の授業は、原則、その週の学習内容を中心とした反復学習を設定している。

そのためには、できるだけ個々の課題に対応できる少人数・習熟度別授業が望ましいと考え、1クラスを2コースに分け、2人の教科担任で授業を行っている。

- 第1・2学年…国語、数学、英語において習熟度別少人数指導を実施
- 第3学年…数学において習熟度別少人数指導を実施。国語と英語はTTを実施



【習熟度別少人数指導（第3学年）】

〔カリキュラムの工夫〕

日程	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月9日(土)	○ (参観日) 少人数・習熟度別授業を公開	○ 保護者及び地域住民へ広く参観を呼び掛け
5月28日(土)	○ (運動会) 小中合同運動会を見据えた種目を検討	○ 地域へ広く案内状を送付。文化庁がポスターを作成し、地域へ周知を依頼
9月24日(土)	○ (芸術鑑賞) 中学生が、小学校第5・6学年とともに鑑賞	○ 小学生の座席は中学生が準備
10月15日(土)	○ (文化祭) 生徒が主体的に取り組めるような形態の工夫	○ 合唱コンクールの審査員として小学校教諭に依頼
11月19日(土)	○ (通常授業) 中学生は、定期テストに向けた少人数による反復学習を実施、小学校第5学年が登校して本校校舎で授業を実施	○ 1学級を2コースに分けて実施、小学校第5学年に対して、中学校教師による教科担任制の授業を実施
12月3日(土)	○ (参観日) 小学校第6学年が登校し、中学生と同様に保護者・地域住民へ授業を公開	○ 保護者及び地域住民へ広く参観を呼び掛け 小学第6学年の保護者には、参観日の案内を发出
12月17日(土)	○ (通常授業) 2学期の復習を中心とした習熟度別少人数指導による個別指導	○ 1学級を2コースに分けて実施(単元ごとの複数の課題の中から生徒が選択する内容)
1月21日(土)	○ (通常授業) 中学生は少人数による反復学習、小学校高学年が登校し、本校校舎で授業を実施	○ 1学級を2コースに分けて実施、小学第5学年に対して、中学校教師による教科担任制の授業を実施
2月11日(土)	○ (参観日) 小学校第6学年が登校し、中学生と同様に保護者・地域住民へ授業を公開	○ 保護者及び地域住民へ広く参観を呼び掛け 小学第6学年の保護者には、参観日の案内を发出
2月18日(土)	○ (通常授業) 習熟度別少人数指導による個別指導(学年末テストに向けて)	○ 1学級を2コースに分けて実施
3月11日(土)	○ (3年生を送る会) 小学校第5・6学年が、中学校の発表を鑑賞	○ 小学生の座席は中学生が準備
3月18日(土)	○ (通常授業) 1年間の復習を中心とした習熟度別少人数指導による個別指導	○ 1学級を2コースに分けて実施(単元ごとの複数の課題の中から生徒が選択する内容)



【小学高学年を対象とした教科担任制の授業】

本カリキュラムのポイント

◆学力向上に向けた取組

- ・習熟度別少人数指導による個に応じた指導
- ・反復学習による基礎・基本の定着
- ・各種調査を踏まえた学力等の分析と改善策の検討

◆地域に開かれた学校行事

- ・保護者、地域住民に広く呼び掛けて実施

◆小中一貫校に向けての取組

- ・小学第5・6学年の児童を対象とした、教科担任制の授業を実施